

オオヤマフスマ *Moehringia lateriflora* (L.) Fenzl

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 12。温帯性の草地性植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。長くはう地下茎がある。地上茎は細く、多少分枝し、高さ 10～20cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は広楕円形～倒披針形、長さ 1～2.5cm、幅 3～10mm、先端は鈍頭～円頭、辺縁と裏面脈上に毛がある。花期は 6～8 月、茎の先端や葉腋に、まばらな集散花序をつける。花弁は 5 枚、白色、長倒卵形で長さ 5～8mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 51701, 1989-5-27)。西：5 稲武 (塚本威彦 2261, 1997-5-29)、20 足助 (芹沢 76871, 2000-7-16)。このほか 13 豊川 (小林 78626, 2003-5-4)、39a 東郷 (岡本沙矢香 225, 2001-5-11)、42a 阿久比 (草木, 渡邊麻子 167, 1995-4-24, 絶滅) にもあり、33 安城からも記録されている (安城市史編集委員会 2005) が、シバについて移入された可能性がある。

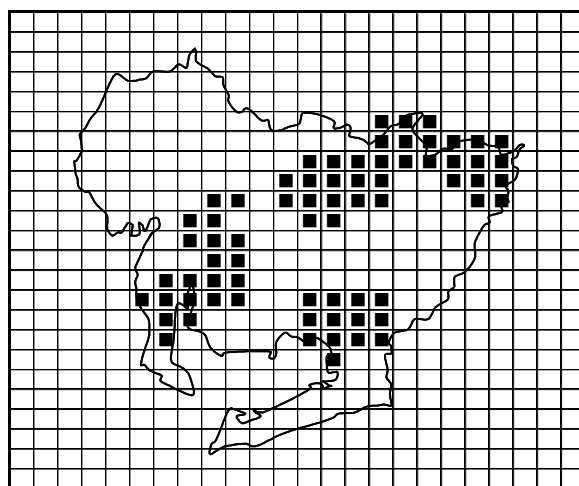
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯域の明るい林内、草地などに生育する。愛知県の場合、豊根は明るい落葉広葉樹林の林内、稲武は川沿いのスギ造林地、足助は水田わきの草地である。東郷は愛知用水わきの草地であり、阿久比も同様であった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どの場所も個体数は少ない。足助では里草地としての利用が停止されれば絶滅は必至である。阿久比では愛知用水の改修によって消滅し、東郷も最近の状況を確認していないが、おそらくすでに消滅していると思われる。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地 (いわゆるボタ) は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。また、愛知用水などの幹線水路沿いでは定期的に草刈りが行われるため、草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避場所になっている。改修に際しては、これらの植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、十分な配慮が必要である。

【特記事項】

ヒメタガソデソウとも呼ばれる。

【引用文献】

安城市史編集委員会(編). 2005. 新編安城市史 11 資料編自然別冊 安城市植物目録 p.27. 安城市, 安城.

【関連文献】

保草Ⅱp.266, 平草Ⅱp.35, 平新版4p.109.